

21世紀に向けて大きく飛躍するNGU

御挨拶



理事長 内山道明

同窓会会長 占部憲一

行楽の季節となつてまいりますが、同窓生の皆様におかれましては、ますますお元気で活躍のことと推察いたします。

母校、名古屋学院大学は、昨年30周年を迎え、学部も商学部、外国語学部が数年前に開設され、ますます充実してまいりました。

そして本年度は、大学院を設立するため、大学院棟建設などさまざまな準備がなされております。

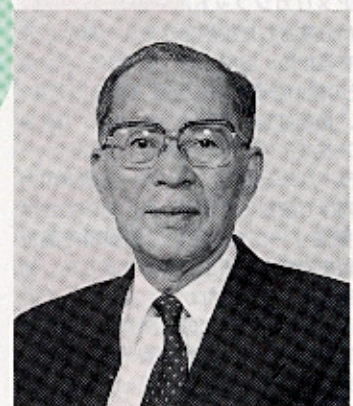
さて、我々同窓会も、本年度新たに、一千六十九名の卒業生を迎え、二万三千名を越える会に成長してまいりました。本年同窓会役員の改選があり新たに理事、監事、代議員が選任され、私が再度会長に任命されました。微力ではございますが同窓会発展のため努力する所存でありますのでよろしくお願いたします。

今年も、例年通り大学祭に合わせ、ホームカミングデーを開催いたします。キャンパスはちよつと遠いと思いますが、大学祭のイベントを楽しみながら、新しくなった大学の姿を見て、旧交を温め合っていたければ幸いです。

本年度も、同窓会の活動にご理解、ご協力を賜りますようお願いいたします。

名古屋学院大学

卒業生の諸兄が、各地でご活躍のこと、心からおよろこび申し上げます。大学の社会的評価は諸兄のご活躍にかかるところ非常に大であります。近年の社会情勢のもとで、いろいろとご苦労のことと存じます。その意味でも、諸兄は大学をになっておられる重要な一員であると存じます。だから、大学卒業生の諸兄とその組織体である同窓会は大学にとって、きわめて大切な存在です。



昨年、この重責を果たすためにも、卒業生諸兄のご協力を心から願うものです。同窓諸兄のご活躍もさることながら、大学の教育研究の内部的充実も、大学の社会的評価をたかめる重要な要因であるのは、いうまでもありません。その目標実現のため、教職員の方々のご協力をえて努力いたします。大学の創設期、数年にわたって非常勤講師として心理学の講義をしたことを思い出します。当時の学生諸君がまことに熱心に聴講した大教室の様子が目に浮かびます。当時からすでに二十年以上たちました。大学も着実に大きくなり、多くの先輩諸兄も社会の第一線で活躍しております。まことにこのはしい限りで、この勢いをさらにたかめていきたいものです。

大学では三十周年記念事業の一環として、基金を募っています。よろしくご協賛いただきますよう、この場をお借りしてお願いたします。

同窓会の一層の発展と、同窓諸兄のご活躍を心から祈念してご挨拶いたします。

学長 横井弘美

大学同窓会会報は第七号、ホームカミングデーは第六回と回を重ねるなど、大学同窓会のご活躍が眼に見えるようになってきました。占部憲一会長はじめ役員の方々とご関係の方々のご苦勞とご努力に改めて深甚なる謝意を表します。

いま日本の経済社会システムは、戦後五十年を経て、大きな転換期を迎えています。情報化ひとつをとってみても、それは大方の予想を遙かに越える速さで進行しています。当然それは大学教育にも直接に関わってきて、例えば黒板とチョークだけの一方通行の講義は消えようとしています。ジャーナル(大学や研究所の機関誌)を出版する必要はなくなるのではないかと囁かれています。マルチメディアを活用した少人数教育によって、見せ、考えさせる教育、教員と学生がじかに接する教育ができ、そのことによって学習意欲は高まり、理解力は深まり、その意味では教育効果は大いにあがるかと期待されています。

しかしこれは光の部分であって、例えばマルチメディア・リテラシーによる文化の画一化、統一化の危険とか大変な問題を内包していますし、またマルチメディアによって個人の自由が個の確立といった真の意味での人間形成はできるのか、人間が尊ばれる社会をどのようににつくっていくのかといった本質的な問題は十分に議論されないままに、情報化が進行しています。これはいまの大学教育に問われはじめている大きな課題です。



このように時代は動いていきます。だから、キリスト教主義を標榜している本学もたゆみなく改革されていかねばなりません。大学構成員の内部努力はもろろんのことです。それだけに、大学同窓会の皆様方の更なるご理解とご協力を切望してやみません。